

建築・環境デザイン学部 建築・環境デザイン学科

【教育目標】

建築・環境デザイン学科は、都市インフラ、生活環境、人と自然、都市環境、建築、インテリア、クラフト、プロダクトのデザイン専門分野において、美・アメニティ・機能・安全を備える持続可能な環境・空間・ものを創出・維持する実務的な「デザイナー」の養成を図るため、以下の教育目標を掲げる。

- ア. 環境・空間・ものをデザインし、維持していくための基礎となる、論理的思考力、多面的造形力、問題発見・解決能力、豊かな感性、コミュニケーション・スキルを養う。
- イ. デザイン言語を習得する。
- ウ. CAD・CG、AI などを含む情報リテラシーを養う。
- エ. デザイナーとしての基礎力を多様な分野において応用できる能力を養う。
この教育目標を実現するために、以下のとおりディプロマポリシー、カリキュラムポリシーおよびアドミッションポリシーを定める。

【ディプロマポリシー】

建築・環境デザイン学科では、都市インフラ、生活環境、人と自然、都市環境、建築、インテリア、クラフト、プロダクトの各々の専門分野において、美・アメニティ・機能を備える環境・空間・ものを創造し、維持することを担う実務的なデザイナーを養成していくという教育目標に基づき、以下の知識・能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。

- ア. 美・アメニティ・機能を備える持続可能な環境・空間・ものを創出するデザイナーとしての基礎的な論理的思考、多面的造形力、確かな技術力を身につけている。
- イ. デザイン言語、CAD・CG、AI などを含む情報リテラシーを習得している。
- ウ. 生活環境に対しての豊かな感性を身につけている。
- エ. 人を取り巻く環境や様々な災害からの防災などに関わる問題発見・解決能力を身につけている。
- オ. 社会や人とのコミュニケーション・スキル、プレゼンテーション能力を身につけている。
- カ. デザイナーとしての基礎力を多様な分野に応用・展開することができる。
- キ. それぞれのコースに合致した社会に役立つ資格を取得するための基礎的技術を身につけている。

【カリキュラムポリシー】

「専門教育科目」では、講義科目によって知識を与え、PBL(Practice Based Learning、実践ベース学習)すなわち演習科目によって実践的な技術力・デザイン力を養成します。そのため、コース間の差異に留意しながら、講義科目とPBLの有機的連携、および、年次間の有機的連携を保つべく科目内容を構成しています。また、キャリア教育は演習科目内で行っています。

1年から2年次前期では建築・環境デザインの基礎を共通で学び、段階的にデザインの各問題群に触れながら学生自らがテーマや問題を発見すると同時に、デザインの基礎となる造形的思考とコンピュータリテラシーを学び、専門分野を理解する上での必要な素養を修得します。またグループによる制作や調査において協働する力、デザインの方法論を学びます。

1年次末で専門コースを選択し、3年次までの間に社会・環境や、ライフスタイルの変化に即応するものづくりに必要となる専門的知識・デザイン創出に必要なリテラシーを、専門分野を通して学びます。

4年次では専門コースで学んだ技術や知識を総合して、人・もの・空間の本質的な関わりを追求し、新たな文化や社会的価値をもたらすデザインを具現化する能力を習得します。

なお、資格に関しては、一級建築士・二級建築士・木造建築士受験資格、測量士補資格、施工管理技士、高等学校教諭一種免許状(理科、工業)および中学校教諭一種免許状(理科)などの取得に対応した教育課程を編成しています。

【アドミッションポリシー】

建築・環境デザイン学科では、本学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに共感、賛同する以下のような人材を受け入れます。入学者選抜にあたっては志願者の長所、可能性に着目することを旨とし、厳正に実施します。

(求める学生像)

ア. 基礎的・基本的な知識・技能

(a)高等学校までに学んだ教科・科目について、基本的な知識・技能を身につけている。

イ. 思考力・判断力・表現力等

(a)必要な情報を抽出して分析し、得られた結果から推論ができる。

(b)学んだ知識を活用して、課題を解決するために論理的に思考して判断することができる。

(c)自らの考えを適切かつ効果的に表現することができる。

ウ. 主体的に学習に取り組む態度

(a)幅広い学びの分野、デザイン分野から自分にあった分野を見出すことのできる自主性を持っている。

(b)創造力・表現力・知識・感性を豊かにすることに対して積極的に取り組む姿勢がある。

(c)社会や環境に対して問題意識を持ち、あらゆる事柄に対する興味・好奇心を抱くことができる。